

高山

たかやま

高山の原生林を守る会

会報 第 137 号

2026年 7月



第 201 回観察会 山梨兜・明神峠の春植物観察会

高山の原生林を守る会第 201 回自然観察会・山梨兜・明神峠の春植物観察会を実施しました。

この山域では、福島市側と米沢市側の山岳植生の分水嶺となっていることを実感させる草本が見られ、貴重なエリアです。加えて、明神峠からは高山から西吾妻に至る吾妻連峰の山々が一望でき、展望にも恵まれたルートとなっています。明神峠から杭甲山に至る稜線は風力発電計画があったルートですが、地元から反対の声が上がり、計画は頓挫しました。

今回の参加者は 19 名でした。このルートを整備している H さんも参加され、明神道にまつわるお話や風力発電の撤退までの経緯などについても説明して頂きました。

これ以上ない晴天の中、若葉のグリーンシャワーを浴びながら、明神道沢から、峠、山梨兜を往復してきました。新緑の透過光、沢から時折吹き上がる谷風が心地よく、参加者は終始ハインション。明神峠までも十分楽しめましたが、明神峠から山梨兜までのブナ林は別格との声が上がりました。この素晴らしいブナ林を守っていただいた皆さんに感謝です。



山梨兜



ブナの雌花



ブナの雄花

駐車場広場から明神沢に沿って長い登山道が続きます。トチノキ、サワグルミに混じってオヒョウ、オオバボダイジュ、ハクウンボク、ホオノキ、ヤシャブシ、サワシバ、そしてブナやカエデ類が見られます。しばらく樹木観察が続きます。そして、沢山の花を着けたブナの下垂枝が目の前に。満開のブナの花を目の前で観察するチャンスはめったにありません。今年は豊作のようです。

明神沢源頭部の湿地帯では満開のコチャルメルソウ大群落、その中でサンカヨウが白い花を咲かせていました。スミレサイシンも葉もあちこちに。

明神峠で昼食後、山梨兜まで続く、ブナ林へ。新緑のブナ林は本当に気持ちがいい。皆さんも解放された表情に。踊るブナやマザーツリーブナなどの古木を経て、5本指を伸ばしたアガリコシナノキへ。そこから、山梨兜の大岩付近の斜面にはフデリンドウ、ヤマハタザオの花が見頃でした。



シナノキのアガリコ

帰路の明神峠では、吾妻山麓の風力発電の展望にそぐわない低音を体感。その後、黄色、赤、オレンジなど多彩なショウジョウバカマを観察。マキノスミレやニオイタチツボスミレも。皆さん思い思いに観察しながら登山口へ戻りました。

萌葱色の山梨兜を目指して

目の前には、きつね柳の花穂が風に揺れています。対岸に目をやれば、山肌がふんわり浮くような萌葱色のグラデーション。

春の芽吹きを迎えた落葉広葉樹林は、また巡ってきた生命の喜びに溢れていました。ブナの葉を陽光に透かして見るとなんと美しいこと！と、ここまではカメラを携え山登りを楽しむ私にもわかることでしたが、注意深く木々を観察したことはあまり無かった。

しかし、高山の会の皆様の森に一步足を踏み入れた途端に溢れ出る知識に圧倒されました。Mさんの解説がまた素晴らしく、植物への愛情豊かな解説に私もいつの間にかサワシバの葉っぱを手に取り観察していました。似た木々同士の判定には、経験を要するのも頷けます。そこには交雑して種を存続させようとする生命戦略の姿があったのです。

知れば知るほど面白く、進む道すがらの観察に時間はあつてないような感覚でした。峠を越えると風力発電の痕跡、自然は何も言わないので、人間のなすがまま。しかも撤退したあとのさら地に咲く花はない。勿論、ブナなどの広葉樹林再生には百年の時間を要すると言われていのに手付かずな赤茶けた裸の山肌が人間の身勝手に抗議しているかのよう、その背後に雪をのせた吾妻の山々の眺望がよいだけに残念でした。本日の観察会は植相、住み分け、交雑種の存在、最後にマザーツリーに見守られるブナの森、シナノキのアガリコの不思議な形。盛り沢山な情報に容量オーバー気味な私でしたが今後が楽しみです。是非、次回もお願いしたいと思っています。ありがとうございました。



サンカヨウ



コチャルメルソウ



カラスシキミ

金子美津子



キツネヤナギ



ニオイタチツボスミレ



ブナの小径



伐採地からの吾妻連峰と風力発電



なんか見つけた

先達山の悲劇をくり返したくない

あんざい ゆか

先達山の悲劇を繰り返したくない。先達山とは、福島市のシンボルである吾妻山のすぐ近くの山である。3年前の夏、突然、禿山になり、そこにソーラーパネルが敷き詰められ、美しい山は一変した。多くの市民は驚き、悲しみ、怒り、何とかしようと、市に問い合わせたり、署名を集めたり、要望書を提出したりと奮闘した。しかし、そんな多くの市民の願いも虚しく、メガソーラーは完成してしまい、みんなの癒しだった山の風景は、無惨な姿に変わり果てたまま、売電が始まっている。

「もうこんなことは絶対起きて欲しくない。」と思っていたのだが、同じことが、今再び繰り返されようとしている。会津若松市東部にある背炙山の尾根に、約50基の巨大風車が建設される計画が進んでいる。美しい只見線の風景や、猪苗代湖の景観への影響が危惧されている。山にとって尾根はとても大事な特別な場所だ。土砂崩れや水源の喪失、生態系への破壊など、重大なリスクを負うことになる。その山の尾根を開発し、そこが大規模に伐採されることを考えると、とても恐ろしい。それに加えて、絶滅危惧種であるクマタカや、国の天然記念物のイヌワシなど希少な鳥類の生息も確認されている。風車に鳥が衝突するバードストライクの発生や生息環境への影響を指摘する声が寄せられている。他にも多くの問題点をはらんでいて、現在危惧されていることをまとめてみると

- ・只見線、猪苗代湖の景観への影響。

- ・土砂災害警戒区域に、指定している沢の上流部の山林を大規模に改変、盛り土することによる土砂災害のリスク

- ・希少生物を保護する国有林『緑の回廊』が含まれるため、開発すれば、多様な動植物に影響を与え、すみかを終われたクマが私達の生活圏に出没する可能性が大きくなる。

- ・風車の騒音が動物、そして人間にも影響する

ざっとあげただけでも、たくさん問題をはらんでおり、地元住民や山の動植物にとっても何のメリットもないことは明らかだ。もちろん地元の方は反対の声をあげている。しかし、実際は、まだまだこの開発を知らない人が多く、地元の人口が少ないなど、地方の特性ゆえに、中止のめどは立っていない。それどころか、地元の会津若松市議会で、反対の声に賛同するのはわずか3名ほどで、ほとんどの議員が賛成か意思を示していない。

ここでとても気になることがある。先達山の工事が始まる前のことだ。私達市民が伐採された山をみて、初めて気がついた一方で、実は、地元の方は、この工事が始まるずっと前から声をあげていたのだ。だが、その声は、私達市民に届くことはなく、伐採されて初めて知ることになり、慌てて声をあげたが後の祭りとなった。今度も同じシナリオが想像され、いたたまれない。なんとか今度こそ、伐採される前に食い止めたい。いや、食い止められるのかわからないが、せめて皆に知らせたい。



背炙山における風力発電計画の概要

背炙山は強い西風が吹く地理的条件から風力発電に適しており、すでに2015年からコスモエコパワー株式会社(旧コスモ石油開発系)による「会津若松ウィンドファーム」(8基、計1万6,000kW)が稼働しています。

しかし、近年になって複数の事業者によるさらなる大規模な増設・新規参入計画**が相次いで浮上しました。これらがすべて実現すると、背炙山の尾根沿いに合計50~60基規模の巨大な風車が並ぶことになります。

西大巔登山道保全作業ボランティア報告

佐藤 守

下山中の参加者のつぶやき:「365日のうちの1日を、登山道保全に充ててもいいかもね」

6月6日(土)に西大巔(にしだいてん)登山道保全作業(誘導ロープ設置、登山道整備、チングルマ挿し木)を実施しました。2020年に一般公募へ切り替えてから、今年で7年目を迎えました。



作業を終えて(24名が参加しました)

今回の参加者は、「高山」会員5名に加え、公募による登山者12名、環境省職員(裏磐梯自然保護官事務所)2名、エンリゾート職員4名、近自然工法アドバイザーの中里 浩氏の計24名です。西大巔の登山道保全作業に快くご協力いただいた皆様には、感謝の言葉しかありません。皆さん、本当にお疲れさまでした。

天候が心配されましたが、山頂に到着する頃には雲の間から青空ものぞくようになり、絶好の作業日和となりました。今回も「健脚組」と「スタンダード組」に分かれて作業を行いました。

健脚組(資材の荷上げ・誘導ロープ設置)

誘導ロープの設置作業では、ロープの色調を考慮して新しいものへ新調したほか、鉄杭の種類も作業性や景観に配慮したものを選定するなど、新たな試みを取り入れました。午前中に西大巔山頂直下の稜線での作業を終え、昼食後は水場から樹林帯前までの設置作業を行いました。

スタンダード組(チングルマの挿し木)

昨年に引き続き、実験的な取り組みとしてチングルマの挿し木を行いました。チングルマは木本(もくほん)植物であり、自生している環境に適応した遺伝的多様性(雑種性)を持っています。挿し木は栄養繁殖であるため、その遺伝構成をそのまま引き継ぐことができます。この挿し木繁殖に成功すれば、崩壊斜面の有力な植生回復技術となります。

最後に、全員で登山道保全作業に取り組みました。西大巔山頂直下の登山道は、崩壊した礫(れき)が積み重なり、登り下りともに難所となっていました。この5年間の整備作業のおかげで、今ではほとんどストレスなく歩けるようになっています。

崩壊した急斜面はテラス化(段切り)したことで、チングルマのコロニーが所々に再生し、登山道は溝切りとステップの設置により歩行性が大幅に改善されました。また、誘導ロープの設置によって「植生回復エリア」と「登山道エリア」を区分して数年が経過し、景観的にもその境界が明確になってきています。

今回の作業は、ボランティア参加者の協力があつてこそ。その多くは登山アプリ「YAMAP」を通して参加した方々で、同アプリ内で参加を呼び掛けてくださる方もおり、大変励まされています。民・産・官・学が所属を超え、同じ土俵で保全作業にあたるスタイルは、これからの山岳自然保護における一つの将来像(モデルケース)かもしれません。



ロープ設置と挿し木作業



登山道、崩壊斜面に流土留め



土留めで流土から再生したチングルマとイワイチョウ



登山道と植生回復エリアに区分

西吾妻山登山道保全作業ボランティア報告

佐藤 守



作業を終えて(20名が参加しました)

今回の参加者には、継続的に保全作業に参加されている方、先週の西大巔に引き続き参加された方、東京・石巻・西郷村など遠方から来られた方、さらに安達太良山など他地域の登山道保全に携わっている方もおられました。

爽やかな晴天のもと、作業は4班に分かれて行いました。

1班:天狗岩～西吾妻山頂間の湿原

2班:天狗岩～西吾妻小屋の木道区間

3班:若女平湿原

4班:西吾妻小屋南西部湿原

それぞれの区間で誘導ロープの設置作業を進めました。昼食後は、西吾妻小屋南西湿原の西大巔側入口に全員が集合し、保全作業を行いました。

限られた時間ではありましたが、ネット袋に石を詰めて土嚢を並べ、崩壊斜面の補強を行い、石を埋め込んでステップを設置しました。この湿原入口は水が集中しやすく、大きくえぐられて礫が露出し、両斜面では赤い心土が見えていました。しかし、ここ5年間の近自然工法(生態系保全型工法)の取り組みにより、景観は大きく改善しています。



2008年6月29日



2026年6月13日
(樋渡敏彦氏撮影)
誘導ロープ設置により植生回復

6月13日(土)に西吾妻山で誘導ロープ設置と登山道整備の保全作業を実施しました。参加者は、一般応募の登山者14名、環境省(裏磐梯自然保護官事務所)職員2名、山形県職員2名、近自然工法アドバイザーの中里浩氏、「高山」代表を含め、計20名でした。



ロープ設置後、全員で保全作業



機能性マットにコケが再生



コケマットにイワイチョウが再生

機能性ネットを敷設した赤土斜面には3種類のコケが広がり、斜面全体を覆うほどにコロニーが発達していました。さらに、イワイチョウのコロニーも形成され始めていました。また、昨年小屋泊まりで機能性ネットを敷設した斜面でも、コケの胞子体によるコロニーが確認されました。

誘導ロープ設置前は湿原内に2本の踏み跡ができ、礫が露出していましたが、湿原脇へ登山道を誘導し、湿原内の踏み跡の入口と出口をロープで閉じたことで立入りを抑制できました。さらに、斜面下の水の出口に石を積み、小堰堤を設置した結果、草地が復元し、かつて露出していた礫はほとんど見えない状態になっていました。

2000年から継続している誘導ロープ設置による立入り抑制と、露出礫の活用を組み合わせることで、湿原植生が回復することが実証されました。

9 マタ・アトランティカの樹木

(7) グアッテリア・アウストリス (*Guatteria australis* バンレイシ科グアッテリア属)

ブラジルの大西洋岸森林(マタ・アトランティカ)原産。大西洋沿岸の非常に高い生物多様性を代表する樹木の一つです。林冠の下(林床～亜林冠層)に生育する中低木。バンレイシ科の植物らしく、ユニークな花と果実の構造を有しています。形態的多様性から41個もの異なる学名(シノニム)が付けられていましたが、2011年に行われた詳細な分類学的再検討(リビジョン)によって、これら41の学名がすべて *Guatteria australis* という1つの種に統合されました。属名はイタリアの植物学者への献名。種小名はラテン語で「南の」「南方の」を意味し、本種がブラジル南部に分布することに由来します。

葉は互生し、楕円形～長楕円形。大きさは中程度。葉の表面は通常無毛で滑らか。裏面や若い枝には、個体や地域によって金色を帯びた細かな伏毛が密生するものから無毛のものまで、非常に大きな変異(多様性)があります。

花はバンレイシ科の大きな特徴である「3」を基準とした構造(三数性)を持っています。花冠は外花冠と内花冠が重なり、緑色から黄色～橙色に変化します。花の中心を覗くと、オレンジ色の多数の雄蕊が集まったドーナツの中心に黄色い多数の雌蕊が詰まっています。雌蕊先熟で雌蕊が熟すると揮発性の化学物質を放出して強力な誘引香を漂わせます。その香りに誘引された小型の甲虫によって受粉が成立します。果実は受精した1つの雌蕊から、1個の種子を持つ1つの液果が、それぞれ放射状に赤い果梗を伸ばし球形の集合果を形成します。

サンパウロ市に注ぐチエテ川の源流を訪れた時、初めてこの樹の花と果実に出会いました。その独特な美しさを湛えた花と果実の姿に、強く心を奪われました。のちにクラロ川沿いのマタ・アトランティカでも再会を果たし、この樹がまさに大西洋沿岸森林を代表する低木の一つであることを実感しました。

(8) カシヤ・フェルギネア (*Cassia ferruginea* マメ科ジャコウネム属)

ブラジルの大西洋岸森林(マタ・アトランティカ)原産。非常に華やかで美しい熱帯性の半落葉高木。ブラジルの主要都市(サンパウロやリオデジャネイロなど)ではアーバングリーンング(都市緑化)の主役として街路樹や景観樹として広く親しまれています。開花期には木全体が黄金色の花々で覆われるのが最大の特徴。種小名の *ferruginea*(フェルギネア)はラテン語で「錆(さび)色の」という意味を持っています。これは、若い枝や出たばかりの新芽、花軸などに、錆色(褐色)の細かい毛が密生する特性に由来しています。

葉は偶数羽状複葉で楕円形の小葉が軸両側に対生して並びます。

花は長い総状花序を枝から下垂して開花。花卉の色は鮮やかな黄金色～明るい黄色。花卉は5枚。雄しべは10本。そのうち3本はマメ科特有の湾曲した長い花糸を突き出し、非常に優美な構造をしています。

ブラジルでは、乾季の終わってから雨季の初め(現地の春～夏、10月～12月頃)に葉が落ちた状態、あるいは新緑と同時に一斉に開花するため、まるで黄色い雨や滝が木から流れ落ちているかのような圧倒的なボリューム感を見せます。遠くからでも非常に目立ちます。

かつてミナスジェライス州から続く「黄金の道(Caminho do Ouro)」を経て、ポルトガルへ金を積み出していた歴史的な港町パラチー。2023年12月28日、この街で300年の歴史を刻む教会を訪れた際、その広場では存在感のある巨木が、黄金色の花房を垂らし始めていました。



花と葉



雄しべと雌しべ



果実



花穂



広場の巨木(パラチー市)

キヌガサソウ (*Paris japonica* シュロソウ科ツクバネソウ属)

吾妻連峰亜高山帯の雪解け水が供給される湿り気のある斜面に群生する多年草。日本固有種。磐梯朝日国立公園指定植物。自生地は日本海側に偏っている。APG 分類体系(分子系統解析)により、ユリ科からシュロソウ科に変更された。また、細胞 1 つあたりのゲノムサイズが世界最大級であることなど、特異的な生理生態的特性をもつことが明らかになっている。

葉は輪生。茎頂に 8~10 枚の大きな葉が輪生する。葉形は倒卵状披針形で先端は尖る。表面は濃い緑色で、光沢がある。葉縁は全縁、葉身には中肋の両側から葉縁に沿った支脈が 2, 3 層走る。多くの個体は輪生する葉数とその上の白い外花被片数が一致する。

花は頂生。茎の先端にカザグルマに似た大型の花を着生する。白い花弁のように見えるものは、花弁ではなく外花被片で本来の花弁(花被片)は糸状に退化している。外花被片は通常 8~10 枚あり、それと並行して雄蕊が着生する。葯は棍棒状で黄色。雌蕊は心皮が合着した緑の子房から白い花柱を 8~10 本伸ばして強く外側に反曲する。外花被片は開花の白から受精が終了するとピンク色に変わり、最終的には緑化して光合成を行う。

初めて登った飯豊山の天狗の庭でキヌガサソウに出会い、その形状に「高山には不思議な植物があるものだ」と感心した。収めた写真の外花被片は緑色だったので開花して大分たった個体だったようだ。それからは、登った時期がずれたのか飯豊山でキヌガサソウを見た記憶がない。その後、八幡平で白い外花被片のキヌガサソウを見たが、飯豊山での記憶よりかなり小さかった。それから美しいキヌガサソウを見る機会に恵まれたが、吾妻連峰で見ることは無かった。貴重種ハンターではないのでそれでも良かったが、体力が残っている内に、吾妻連峰で新鮮なキヌガサソウに出会う機会に恵まれたのは幸いだった。



ベニサラサドウダンツツジ (*Enkianthus campanulatus* var. *palibinii* ツツジ科ドウダンツツジ属)

吾妻・安達太良連峰のブナ林から亜高山帯に自生する落葉低木。日本固有種。基本種であるサラサドウダンの変種にあたり、鮮紅色の花色が特徴。基本種よりベニサラサドウダンの方がより厳しい環境条件を好む傾向がある。中間的な色合い(赤みの強いサラサドウダン)を持つ株もあり、この 2 種は環境や気候に応じて住みわけている。このことから基本種の個体差(連続的な変異)として扱われることもある。しかし、湿原と樹林帯で広域的に明瞭に区分される山域も存在する。

葉は互生。枝先に極端に細かく集まって互生するため、輪生しているように見える。葉質は紙質~膜質、表面は鮮やかな緑色、裏面はやや淡い緑色を呈する。葉形は倒卵形または倒卵状長楕円形。葉の先端は鋭く尖る。葉縁は、細かく鋭い微鋸歯がある。また、葉の表面や裏面の主脈沿い、特に基部近くには褐色の倒伏毛が生える。

花は頂生。当年枝の頂芽から複数の総状花序を下垂する。1 つの花序に数個から 15 個ほどの小花が花軸の基部から先端に向かって順に開花する。小花は広鐘形(鐘のような形)。先端は浅く 5 つに裂け、外側へ反り返る。花冠は濃紅色~深紅に同色の濃いストライプが入る。雄蕊は 10 本。花糸の基部が膨らんでおり、ここに白い微毛が密生する。黄色い葯の先端(背部)に 2 本の針状の突起(芒:のぎ)が伸びる。これは、昆虫が触れた際の振動トリガーとして機能する。昆虫(マルハナバチなど)が花冠に頭を突っ込んで雄しべを揺らすと、葯の突起(芒)に連動して適量の花粉が虫の背中に効率よく降りかかる仕組みになっている。花粉は葯の穴から放出される。雌蕊は 1 個で柱頭は緑色。子房の基部を取り囲むように、蜜を分泌する緑色のリング状の「花盤」が発達している。



柔らかな緑の木漏れ日を浴びて、ベニサラサドウダンの濃紅色のコントラストが圧倒的な美しさを描き出していた。

第 202 回自然観察会 樋沼～鳥子平・高原の植物観察会

日時：2026 年 7 月 26 日（日）8：00～16：00

集合場所 四季の里正面入り口駐車場

集合時間 8:00 参加定員 20 名

内容 兎平駐車場を起点として樋沼を経由して鳥子平湿原までの奥の細道自然観察路を往復します。高層湿原とオオシラビソ林に植生する夏の高原植物を観察します。

準備するもの 昼食、登山靴・長靴等、雨具、スパッツ類、防寒具、帽子、毛手袋、着替、ゴミ袋、筆記用具、メモ帳

＊装備、その他不明な点があれば申し込み時にご相談下さい。

参加費用：保険代(500 円)、申し込み：7 月 24 日(金)まで佐藤守(024-593-0188)へ電話またはメールにてお願いします(電話申込は午後 7 時～9 時でお願いします)。

会津若松市・背炙山の風力発電設置計画について

背炙山の「風力発電基地化」に対し、地元の危機感は急速に高まっています。「背炙山風力発電建設中止を求める会」などの市民団体が結成され、環境保護や計画中止を求める署名を会津若松市長へ提出し、事業者や国への働きかけを強めています。また、新規建設地に近い湊町地区では、区長会長や複数の町内会長が連名で会津若松市長に対し、「市として明確に反対の意思を表明してほしい」との申し入れを行いました。会津若松商工会議所なども、地域の重要な観光資源である景観への悪影響を懸念し、全会津規模の観光推進大会などで「自然エネルギー施設設置に伴う景観保全」を重点事項として提案する動きを見せています。

風力発電計画エリアは公的に指定された生態系保全地域であり、会津若松市、福島県、林野庁、環境省などの行政機関の対応次第では、これらの指定が形骸化されることになります。

ラムサール条約

猪苗代湖は、2025 年 7 月 15 日に国際的に重要な湿地を保護する「ラムサール条約湿地」に新規登録されました。猪苗代湖のラムサール条約指定は、「美しい水質と、コハクチョウなどの水鳥や絶滅危惧種を守る豊かな生態系」が国際的に認められたものです。背炙山の風力発電基地化と猪苗代湖に飛来するコハクチョウのバードストライクとの関係は無視できません



国有林「緑の回廊」

計画地の一部には、野生動植物の行き来を確保するために指定されている国有林の保護区域「緑の回廊」が含まれています。

日本森林浴の森 100 選

背炙山は会津盆地と猪苗代湖を隔てる山地であり、「日本森林浴の森 100 選」にも選ばれている会津東山自然休養林を含みます。盆地や湖の双方から視界に入る尾根筋に 50 基以上の巨大風車が並ぶことは、会津若松市や猪苗代湖周辺の歴史的・自然的な観光景観を大きく損なうと指摘されています。

子どもたちに残したい会津の自然と風力を考える
「市民フォーラム」開催

主催：会津の自然と景観を守る会

日時：7 月 26 日(日)14 時～16 時

会場：会津若松市文化センター1 階展示室兼会議室

入場無料

「賛成」「反対」を決める場ではありません。まずは知ることから始めませんか？

講師： 坂内正明氏(工学博士 三重大学名誉教授)

ゲスト講師：菅家博昭氏(会津学研究会代表)

連絡先：栗城英雄 090-6624-1576

「高山」高山の原生林を守る会会報 第136号 2026年7月発行

編集・発行：高山の原生林を守る会 HP：<http://adumatakayama.justhpbs.jp/index.htm>

(URL が変わりました)

代表連絡先：佐藤 守 Phone 024-593-0188(夜間7時～9時)

郵便振替：02170-0-24351 「高山の原生林を守る会」

入会方法：年会費(1000円)を添えて上記まで

編集：佐藤